

平成27年度 自己評価表

愛媛県立宇和島東高等学校 (全日制)
 学校番号 43

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	伝統の力に新たな ^{かぜ} 東風を！ — 夢と感動を育てる —
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自	わかる授業の実践	授業研修や教科の連携を推進し、指導方法を工夫・改善して授業の質の向上を図り、生徒の授業満足度100%を達成する。	B	授業方法と評価方法については高評価だった。前回より理解度が若干上がったので、授業満足度はやや向上したと考えられる。	引き続き、授業方法の研究を継続し、工夫・改善を図ることで、より多くの生徒が理解できるよう努力していきたい。
		相互研修の機会として、年間5回以上の授業参観を実施する。授業アンケートや研究授業参観シートを積極的に活用するとともに、研究授業の深化を図り、授業改善に努める。	B	現職教育計画に基づいた校内研究授業を実施していただいた。また、基礎研修受講者やスキルアップ事業に参加された先生方の研究成果を「研究紀要」に寄稿していただくことができた。	授業参観回数は今年度1人あたり平均7.3回となっている。引き続き校内研修会の計画・実施や研究授業参観シートの活用・批評会等を通して相互研修の充実を図りたい。
己	学習習慣の確立	教科間で連携し設定した適量の課題に取り組みさせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。	B	1月の家庭学習時間は2年生普通科理科生が171分となり増加し始めた。もともと1年生の学習時間は多く、今後も家庭学習を継続できるように指導する。	2年生の学習時間がようやく増え、受験意識が高まりつつある。家庭学習時間を確保し、進路実現に向けた学習を継続させるよう指導したい。
実	理数教育・産業教育の充実	生徒が主体的に課題研究テーマを設定するなど学習意欲の向上を図り、体験的・問題解決型学習を徹底し、研究内容の充実を図る。	B	SSH生徒研究発表会や海外科学体験研修等において、口頭発表やポスター発表等を実施することができた。	課題研究テーマを精選し、活動環境を整え、自発的な活動を促す。
		生徒の自発的・主体的な活動を推進し、各種イベント・コンテスト等に10回以上参加して上位入賞を達成する。	A	最優秀賞1、優秀賞3等計10の入賞。計20の科学系コンテスト等に参加。	コンテストの上位入賞を目指して積極的に参加する自主性を促すような指導をする。
現	希望進路実現	キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。	A	3年生の取得状況は、83.8%で、昨年に比べ5.4ポイント上昇している。また、商業経済検定全科目合格者は、25名で全国2位の好結果であった。	新教育課程実施により、検定内容の難易度が上がり、1級取得が難しくなっているため、指導を工夫しながら強化したい。
		望ましい職業観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践し、早期に採用内定率100%を達成する。	A	昨年に引き続き求人数は増加しており、生徒の関心も高い。10月上旬には採用内定率100%を達成することができた。	早期に目標を達成することはできたが、企業や職種に対する知識の面で不足しているため、資料の充実を図りたい。
		進学データの有効活用など教員の進学指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数110名以上を達成する。	A	3月30日現在国公立大学合格者数は97名、難関私大合格者が32名となり、国公立大学前期試験終了時で早々と目標を達成できた。	今年度は難関私大の受験者が例年より増加し、その合格者数が増えた。来年度も指導を継続するが、国公立大学合格者数を維持できるよう努めたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的生活習慣の定着	身だしなみ指導や生活講話等によって、生徒の規範意識の向上を図るとともに、自律的な生活態度を育成する。	B	全体的に落ち着きのある学校生活を送ることができている。ヘルメットの着用に伴い、交通マナーも向上している。	ヘルメットの着用については、命を守るという観点から、登下校時以外での着用についても積極的に呼び掛けていく。
		生徒の健康・安全に留意し、長期欠席・不登校への早期対応に学校全体で取り組み、一か年皆勤率60%以上を達成する。	B	長期欠席、不登校傾向の生徒が見られたが、早期対応により改善しつつある。各学年とも一か年の皆勤率は60%以上を達成している。	生徒理解に努め、情報を共有し連携をとりながら、長期欠席不登校の早期発見、対応に取り組む。
	人権意識の高揚	「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの早期発見・防止に努め、人権教育を推進し、生徒の自己愛・他人愛の精神を育成する。	B	「学校いじめ防止基本方針」について再点検するとともに、生徒の自殺予防についても、全教職員対象に研修を行った。	「学校いじめ防止基本方針」については、教育相談課・生徒課・各学年団等と連携を図り、いじめ防止に取り組んでいく。
	家庭と連携した個別指導	個人面談・保護者懇談を年間5回以上実施し、生徒及び保護者との相互理解を深め、充実した個別指導を実践する。	A	生徒の生活状況、学習状況などの把握に努め、個人面談・保護者懇談会を実施している。今後も指導を継続していきたい。	個別指導を行うにあたり、時間と場所の確保が困難な状況にある。面談を行いやすい環境づくりが必要である。
	読書の勧め	書物に親しむ場としての図書館の活用を推進し、読書会の充実や図書広報によって読書への関心を高め、一人年間10冊以上の読書を達成する。	C	図書に関するアンケート結果から、読書冊数平均6.0冊（昨年6.4冊）、貸出冊数3.4冊（昨年度3.2冊）となっている。1年生の読書冊数は昨年度と比べて増加傾向にある。	「朝読週間」を9月に設け、2月からは毎朝「朝の読書」の試行期間とした。引き続き、本に親しむ雰囲気作りに努めたい。共通理解を図り、学校全体として、読書指導を継続して行う必要がある。
	ボランティア活動や地域イベントへの参加	一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通して、地域の活性化に貢献する態度を育成する。	B	夏季休業中などボランティア部を中心に、積極的に活動した。	ボランティアの情報を適宜生徒に発信し、地域の実情を把握させた上で、主体的な参加につなげる。
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事において生徒の主体性を軸に、協調性・独創性及び愛校心を育成し、生徒の学校行事満足度100%を達成する。	A	文化祭、ポートルース、体育祭などを通して生徒が主体的かつ積極的に活動し、非常に高い満足度であった。	次年度は、120周年の節目の年度であり、各行事の規模の拡大・充実を図るとともに、生徒を積極的に参加させる。
	部活動の活性化	指導体制の充実によって魅力ある部活動を推進し、部活動加入率を高め、心・技・体の調和の取れた生徒を育成する。	B	各部活動において調和の取れた生徒の育成に努めた。運動部への加入率に改善点が見られる。	新入生に、部活動の意義などを説明して意欲を高め、部活動加入率を上げるとともに、各活動を支援する。
	全国レベルの部の育成	教員の指導技術の向上を図るとともに、競技力向上のための環境を整備し、10部以上が全国大会出場を達成する。	A	全国大会出場10部以上を達成し、それぞれの部で成果を上げた。	全国出場の部を目標に、すべての部が切磋琢磨していく環境を整える。

※評価は5段階（A：十分成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）